

ひとの
ちから

CLOSE * UP



海行原ふるさと愛好会事務局

川上祥一さん

かわかみ・しょういち 昭和26年生まれ、樺上在住。2009年から海行原ふるさと愛好会事務局を務める。趣味はジョークと木工。自宅のプランコや表札、庭先の看板も全て手作り。

「海行原ふるさと愛好会」(荒木俱則会長)は、樺上区の海行原地区(約30世帯)の有志15人で組織し、地域づくり活動をしています。

「17年前から、幼馴染が中心になって地域の清掃活動などをやっていたのが始まりです」と事務局の川上祥一さんはいます。地域のことは地域でやろう、と声を掛け合っ

て活動を続け、平成21年に愛好会を正式に組織しました。今は国や県の補助金を活用しながら、地域づくり活動の幅を広げています。

川上さんは現在、「そばづくし定食」を出す食事処を6月中にオープンさせるため、準備を続けています。自らもそば打ちを学び、親戚や近所の人などにふるまって腕を磨いています。

食事処で使うソバは、海行原地区で収穫したものです。愛好会が近隣地区の人たちの協力を得て休耕地を開墾し、栽培しました。

「よかところでしょう」川上さんは海行原地区を散策し

ながら目を細めました。川上さんは、小岱山の尾根や海行原の里山を望む風景、田畑や人は宝だといいます。

「海行原には土地がある、農機具がある、技術と人材がある。ないのは労力(人の数)だけ」と話す川上さんは、地域にあるものを生かす愛好会の活動で、海行原を他の地域から人が集まる場所にしたいそうです。現在は、海行原の野菜を使って地元の人が漬けた漬物を、樺区主催の「百姓市場」などで販売しています。

また、6月に開設予定の食事処の他にも、直取り農園や貸し農園、宿泊農業体験など、さまざまな計画を思い描いています。

「夢は、海行原の田畑で農作業をする人が、頻繁に見られるようになること」休耕地の解消で風景を復元できたのが一番うれしいと話す川上さん。次はその風景の中に人を溶け込ませたいそうです。

先人たちが苦勞を重ねて拓いたふるさとへの思いが、地域に人を呼び込みます。